

あいさつ

青木村

おはようございます。

本日、令和6年第2回青木村議会6月定例会を招集いたしましたところ、全議員の皆様方にご出席をいただき、また日頃より村政の運営にご理解とご支援をいただき感謝申し上げます。

新型コロナウイルスが感染症法上の5類に移行してから1年が過ぎました。令和元年12月から3年半、コロナ禍対策に追われてまいりましたが、その体験から得た課題を検証し今後活かして、村行政に取り組んでおります。

また、ロシアによるウクライナ侵攻、ガザ戦争、地球温暖化、少子化、人口減少、社会保障、物価高、賃金格差など国内外の問題が山積し、日本社会全体が大きな変化の渦中にありますことから、世の中の動きにアンテナを高くして村政を務めてまいります。

先日、ロシアによるウクライナ侵攻や気候変動などを背景に、食料安全保障の強化などを盛り込んだ、「食料・農業・農村基本法」の改正法が成立しました。

農業の環境負荷低減を新たな理念に掲げ、生産性や付加価値の向上による農業の持続的な発展や地域社会の維持に向けた農村振興も理念として打ち出しています。日本農業は大きな転換点を迎えており、政府は今後、改正法に沿った具体的な施策の検討を本格化していくとのことですが、コスト高騰に苦しむ生産者の声に耳を傾けていただき、充実した施策と予算が実現することを期待しております。

大きな時代の変化の中で、地方公務員に求められる能力や資質も変化しますが、その基本は「全体の奉仕者」として、住民との信頼関係を構築する誠意ある対応であり、職員ひとりひとりが青木村役場の代表であるという自覚や責任感を持って行動しなければならないと考えます。

手始めとして、4月より朝礼で接遇マニュアルの読み合わせを行い、挨拶、身だしなみ、表情・態度、言葉遣いなど、基本的な接遇を改めて確認し合い、村民の皆さんを笑顔でお迎えし、笑顔でお送りするワンランク上のサービスを目指してまいります。

人口戦略会議は、人口から見た全国の地方自治体の「持続可能性」について、分

析を行いました。

今回は、新たな視点として、人口の「自然減対策」（出生率の向上）と「社会減対策」（人口流出の是正）の両面からの分析を行いました。基本的には、若年女性人口の将来動向に着目した2014年の分析を踏襲し、若年女性人口が2020年から2050年までの30年間で50%以上減少する自治体を「消滅可能性自治体」としています。

このデータによれば、「持続可能性」が県内で最も高いのは軽井沢町で、青木村は20番目で、上田小県地域では一番高く、前回調査と比較して改善されております。引き続き、地域特性を活かした青木村らしい人口減少対策を講じてまいります。

能登半島地震発生から5か月が経ちました。

住宅24,000棟が全半壊した石川県の主な自治体の公費解体状況は、16,240棟の申請に対し解体・撤去が完了したのは383棟と全体の2%にとどまっており、今も残る多くの倒壊家屋が復旧の足かせになっているとのことです。最大で約11万戸にもものぼった水道の断水はほぼ解消されましたが、今でも1,821戸が断水しているとのことです。

長野県合同災害支援チーム（チームながの）の活動における当村からの派遣につきまして、ご報告いたします。

当村からは延べ35日、8名の職員を派遣いたしました。

5月31日をもって、チームながの災害派遣支援は終了し、今後、県では地震防災対策強化アクションプラン（仮称）策定に向けて取り組んでいくとのことです。

（内容は県と市町村における備蓄体制連携整備や孤立発生に備えた対策、県内統一の住家認定調査システム導入の検討、住民への自助呼びかけ方策の検討等）

また、村内3か所で受け付けております義援金の被災地への送金は5回を数え、6月4日現在、合計金額は740,424円となっております。

※参考

期 間	派遣先／業務内容	派遣者
1月11日（木）～14日（日） 4日間	羽咋市 廃棄物運搬車両受付・誘導	教育委員会 窪田大悟 総務企画課 山崎唯吹
1月25日（木）～29日（月） 5日間	羽咋市 廃棄物運搬車両受付・誘導	住民福祉課 宮入貴文

2月18日(日)～24日(土) 7日間	羽咋市 被害家屋認定調査・罹災証明発行業務	商工観光移住課 清水雄太
3月14日(木)～19日(火) 6日間	輪島市 輪島高校避難所支援	建設農林課 増田勇氣 住民福祉課 若林佑河
3月31日(日)～4月6日(土) 7日間	羽咋市 被害家屋認定調査・罹災証明発行業務	商工観光移住課 宮澤俊博
4月28日(日)～5月3日(金) 6日間	輪島市 被害家屋認定調査・罹災証明発行業務	建設農林課 多田宇宏

次に、村政の重点事業を申し上げます。

まず、「国道143号青木峠バイパス整備事業」につきまして、事業主体である県では、各地権者の用地測量が完了し、現在は税務署との事前協議と並行して、土地売買契約の手続きを順次進めているとお聞きしております。村でも用地の買収に協力するとともに、事業費の確保に向けて、関係自治体や関係団体と連携しながら、国・県へ要望活動を行ってまいります。

何れにいたしましても、早期に工事着工していただけるよう、引き続き事業推進に協力してまいります。

次に、情報通信ネットワーク等高機能化促進事業について申し上げます。

昨年度から準備を進めておりました、情報通信ネットワーク等高機能化促進事業についてですが、全体の整備の内容が決定しましたので、今議会において補正予算と事業者との契約についてお願いしております。

①情報電話更新にあわせての高機能化、②テレビのあおきチャンネル(仮称)の創設と定点カメラによる道路・河川情報、文字放送による情報伝達、あわせて③スマートフォンによるお知らせ通知によりまして、停電時やお出かけ時にも重要な村からのお知らせを、この3点セットで、誰ひとり取り残さない、平等できめ細やかな、災害に強い、情報通信のネットワークを構築いたします。

財源に予定している緊急防災減災事業債は、現段階では順調に申請手続きが進んでおり、11億円を超える事業を、有利な財源にて実施ができるものと考えております。今後は、補正予算のご議決をいただいた後、追加議案として、事業者との契約のご議決をいただき、事業をスタートさせる予定であります。

事業を円滑に進めるにあたり、村内関係団体や、地区選出と公募による地域情報高度化サポーター(仮称)を募り、青木村地域情報高度化促進委員会(仮称)を立

ち上げ、村民によるサポーター組織を形成し、村内各団体の会議に出向き説明させていただくなど、青木村地域の情報の高度化、DX化を村民のみなさんとしっかりと進めてまいります。

また、当初は有線電話、現在は情報電話という呼び名で認知されてまいりました情報通信サービスですが、新しい通信サービスへより親しみを持っていただくため、広く愛称の公募を行い、新委員会で決定していきたいと考えております。

次に、松くい虫事業について申し上げます。

青木村は山林が8割を占め、そのうち約35%がアカマツ林であり、昨年に引き続き今年も、暖冬・温暖化等の影響で松くい虫の被害が増加しております。

(※一般に松くい虫と言われますが、マツ材線虫病のことで、病原体である「マツノザイセンチュウ」という体調1mm以下の線虫がアカマツの中に入り、木を枯らす伝染病です。このマツノザイセンチュウを媒介するのが「マツノマダラカミキリ」という体長2～3cmほどのカミキリムシです。)

村では4月から、松くい虫の拡大を防ぐため、国・県の補助金、森林環境譲与税を活用して、森林施業者と連携しながら、赤くなったすべてのアカマツの木に対し、全量伐倒燻蒸駆除を行っております。

今年度も昨年以上の発生が見られます。引き続き景観を守り、災害を防ぐためにも、作業員を増員して作業を推進してまいります。

(※最近の作業実績 令和3年度…駆除量1,440 m³ 事業費42,229千円、
令和4年度…駆除量1,615 m³ 事業費47,289千円、
令和5年度…駆除量3,299 m³ 事業費95,150千円)

沓掛貞人さんが本年1月にご逝去されました。

貞人さんは長年、生涯学習や広報誌などで村の歴史や文化を語ってこられました。広報あおきにも平成17年11月から約13年間、「村の文化財」、「真田氏と青木村」、「青木村の城館跡」の執筆をいただき、感謝申し上げます。

ご遺族よりご寄贈いただいた膨大なデータには、「義民関係」、「生涯教育講座」、「村松の歴史」、「文化財関係」など、歴史関係のものが多く含まれており、大切な貴重な資料となっております。後々の人たちがこれを繻(ひもと)けるような形で保存していきたいと考えております。

5月24日、上田地域広域連合議会臨時会が開催されました。広域連合の重要課題

や事業について申し上げます。

まず、資源循環型施設建設についてですが、現在、環境影響評価の準備書の手続きを行っております。準備書では、資源循環型施設が環境へ与える影響を予測・評価し、環境への影響をより一層低減させるための環境保全措置を検討しています。環境影響評価のすべての手続きは、令和6年度中の完了を予定しております。住民説明会は4月から始め、全7回実施することになっています。

既存のクリーンセンターは、いずれも稼働から30年以上が経過し、老朽化しておりますことから、施設建設に向けた取組を推進していく必要があります。令和6年度中には、清浄園用地を資源循環型施設の建設地として、正式に決定してまいりたいと考えております。

各クリーンセンターにおける搬入ごみについては、令和5年度末で合計37,181tとなり、前年度と比較して2,000t、5.1%の減少となりました。「第4次ごみ処理広域化計画」における令和7年度の可燃ごみの減量化目標値35,445tを達成するためには、あと2年間で1,736tの減量が必要となります。

次に、広域消防について申し上げます。

近年、全国的に119番通報の増加や大規模災害の激甚化・頻発化など、消防を取り巻く環境が変化しておりますことから、4月に「通信指令課」を新設し、通信指令体制の強化を図っております。

また、4月から上田中央消防署に、24時間、365日出動可能な指揮支援隊を配備し、指揮体制の整備を図りました。

さて、3月定例会閉会後から本日までの主な行事についてご報告いたします。

3月28日(木)、「上田市との給水援助協定調印式」を行いました。

災害などの非常時における隣接する自治体同士による水道水の供給に係る協定を締結しました。

4月2日(火)に「青木村保育園入園式」(29名)、4月5日(金)には「青木小学校入学式」(32名)と「青木中学校入学式」(29名)が挙行されました。

人生の新しいスタートに、健やかな成長を願い、心からの激励をしました。

4月17日(水)、「青木村戦没者追悼式」を挙行しました。

遺族会、消防団など関係者が参列し、戦争で亡くなられた方、消防団活動で殉職された方を悼み、平和や安全への誓いを新たにしました。

五島慶太翁の誕生日4月18日(木)に、青木村における顕彰活動の象徴の日として、「五島慶太翁の日制定式」を行いました。

満開の桜の中、制定宣言を行い、慶太翁への思いなどを語り合いました。同時に、翁の伝記「(仮称)慶太伝」の製作発表を行いました。来年の五島慶太翁の日の発刊を目指して、編纂を進めております。

コロナ明けの5月の連休中、各地区で郷土芸能の発表などイベントがありました。道の駅あおきでは連日、村民参加のイベントが開催され、村外のお客さんも多く訪れ、活気に満ちた連休でした。

5月8日(水)、商工会の総会が行われました。

役員改選が行われ、会長に岩下勇雄さんが再選されました。

5月12日(日)、「信州昆虫資料館20周年セレモニー」を行いました。

小川原辰雄先生の『人虫共棲』というコンセプトのもと開館し、途中先生のご逝去に伴い、村営として引き継いでまいりました。昆虫標本28,000点、昆虫図書文献等5,000点余りを所蔵し、村を代表する文化施設のひとつとして、今後もたくさんの来館者を誘致してまいります。

5月22日(水)、信州大学との共同研究プログラム「食と衛生の体験型防災ミニキャンプ」を開催しました。

電気・ガス・水道などのライフラインが止まった際でも、温かい食事を簡単に作ることができる防災食の調理体験や、水を使わない口腔ケア法などを学びました。

5月23日(木)開催の「夏まつり実行委員会」で、今年も夏まつりを実施することが決定しました。

平和な生活や悪疫退散への願いを込めて、花火大会も実施する予定です。

5月25日(土)、青木村下横手の森で「UE森2024～上小地域にぎやかな森づくり植樹の集い～」と「千曲川上・下流住民による共同植樹会」【テーマ：青木の森林(もり)は長沼の堤防】の2つの植樹会を開催しました。

山林が持つ保水能力を高め、地域の防災、住民の安全に少しでもつながることを

願いながら、約300人の参加者の皆さんがカラマツ4,000本を植栽しました。

5月27日(月)に公表された内閣府「月例経済報告」によりますと、『景気は、このところ足踏みもみられるが、緩やかに回復している。』とのことであります。

6月1日(土)、小学校の運動会が、暑い初秋からこの季節へ、音楽会と入れ替えて行われました。

児童の皆さんのアイデアによる全児童参加の「タッチでつなげ全校リレー」は、観ている私たちも思わず力が入り、身を乗り出して応援をしました。卒園からわずか2か月の新一年生の成長や6年生のリーダーシップもあり、全員が力を出し合った元気いっぱいの素晴らしい運動会に感動し、来賓の私たちもたくさん元気をいただきました。

さて、本議会の議案についてであります。報告3件、議案5件、請願2件、陳情1件であります。

令和5年度3月専決補正予算（令和6年3月31日付専決処分）の概要について

一般会計 第8号専決補正予算は、歳入歳出それぞれ6,837万3千円を減額し、総額を33億4,934万1千円とします。

厳しい財政運営の中ではございましたが、令和5年度当初予算で見込んでいた財政調整基金や公共施設整備基金を取り崩すことなく、例年同様に翌年度への繰越額を確保することができ、健全財政を確保できました。

令和5年度3月専決補正予算における一般会計の主な事業は次のとおりです。

歳入		(単位：千円)
目	説明	計上額
地方交付税	普通交付税の確定による増額補正	265,625 増
総務費国庫補助金	地方創生臨時交付金（低所得世帯支援分）	15,427 増
基金繰入金	財政調整基金の取崩しを取り止めたことによる減額補正	△ 227,300 減
	公共施設整備基金の取崩しを取り止めたことによる減額補正	△ 83,000 減

歳出

(単位:千円)

目	節	説明	計上額
財産管理費	積立金	減債基金積立金の増 普通交付税再算定による臨時財政対策 債償還基金費の増	8,255 増
情報通信サー ビス事業費	積立金	情報通信施設等整備基金積立金の増	10,000 増
定額減税支援 金	負担金補助及 び交付金	定額減税支援金の増 (地方創生臨時交付 金事業)	8,390 増
林業振興費	委託料	保全松林健全化整備事業の増	5,436 増
移住定住促進 費	負担金補助及 び交付金	定住促進応援補助金の減	△ 4,000 減
		U I J ターン就業・創業移住支援事業補 助金の減	△ 4,700 減

令和6年度6月補正予算の概要について

一般会計 第1号補正予算は、歳入歳出それぞれ12億1,716万円を追加し、総額を42億8,416万円とします。

令和6年度6月補正予算における一般会計の主な事業は次のとおりです。

歳入

(単位:千円)

目	説明	計上額
法人分 (村民税)	法人分 (村民税) の増	38,000 増
農林水産業費県補助金	地域発 元気づくり支援金	1,446 増
基金繰入金	財政調整基金繰入金の減	△ 20,896 減
	情報通信関連事業基金繰入金の増	90,000 増
雑入	自治総合センター助成金 (宝くじ助成金採択による)	2,500 増
	市町村振興協会地域活動助成事業 (宝くじ助成金採択による)	1,000 増
	コロナワクチン定期接種助成金	9,130 増
緊急防災・減災事業債	情報通信ネットワーク等高機能化促進事業費へ	1,096,400 増

歳出

(単位:千円)

目	節	説明	計上額
諸費	備品購入費	コミュニティ助成事業備品 (宝くじ助成金採択による)	2,700 増
情報通信サービス事業費	委託料	情報通信ネットワーク等高機能化促進事業整備委託料	1,186,040 増
予防費	需用費	医薬材料費 (コロナワクチン代)	6,936 増
	委託料	予防接種委託料 (コロナワクチン接種)	6,941 増
農業振興費	工事請負費	そば保冷庫工事 (地域発 元気づくり支援事業)	1,940 増
	負担金補助及び交付金	獣害予防施設設置事業補助金	1,000 増
	負担金補助及び交付金	水田営農推進機械施設等導入事業補助金	3,109 増
道路新設改良費	負担金補助及び交付金	急傾斜地崩落対策事業負担金 (杓掛区湯原地区)	750 増
非常備消防費	需用費	地域防災組織育成事業 消防団員用雨具 (宝くじ助成金採択による)	1,188 増
学校管理費	工事請負費	中学校特別教室棟防水改修工事	2,080 増

以上、補正予算の内容を説明させていただきました。

詳細につきましては、教育長、担当課長からご説明致しますので、ご審議の上、ご議決いただきますようお願い申し上げます、あいさつとさせていただきます。